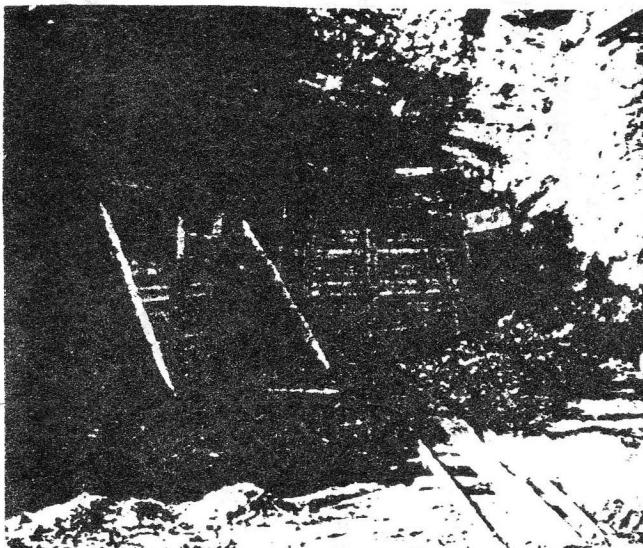


日吉台地下壕保存の会

会報



操業時の姿をとどめる浅川地下工場出入口
トロッコの線路が見える 1945年米軍撮影

日吉台地下壕への想い
事務局長 寺田貞治
保存会結成から二年余り経ちました。
会員の数も増え、地下壕保存の必要性についての理解者も増えてきたにもかかわらず、
最近、少し焦りにも似た気持ちが出てきました。
全国的にみても、各地の保存運動は盛り
上がりてきてはいますが、保存が実現した
ところは松代を除いて殆どありません。悲
惨な戦争の傷跡は、全て無くしたい、国民
の目に触れさせたくないという目に見えな
い勢力が、強くあるからでしょう。

戦争の体験者が少なくなつてきている現
在、私達に残された時間は余りありません。
先日ある新聞に、ある団体の呼掛けで、誤
つて日吉台地下壕の市民見学会が報道され
ました。中止になつたことを知らない人達
が何百人も集まりました。集まつた人達に
謝り、一通り地下壕の説明をして、お帰り
頂きましたが、これを見ても人々の日吉台
地下壕への関心の深さがわかります。

一日も早く地下壕の出入口や内部が整備
され、保存公開が実現できればと思います。
皆さん、いいお知恵がありましたら御連絡
下さい。

これからも、何卒、暖かい御支援と御
協力をお願い申し上げます。

第12号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223

横浜市港北区下田町3-15-27

045-562-1282 (寺田貞治)

目 次	頁
○日吉台地下壕への想い	1
○保存会行事のお知らせ	2
セミナー（田中伸尚氏の講演）	3
八王子の地下壕の見学会	4
○第1回幹事会報告	5
○第2回幹事会報告	6
○日吉台地下壕見学会感想文	7
○地下壕関連図書紹介	8
○お詫び	8
○編集後記	8

日吉台地下壕
への想い

事務局長 寺田貞治

保存会行事の お知らせ

●セミナー

日時 七月十四日(日)

場所 慶應義塾大学(日吉)
藤山記念館大会議室

参加費 五百円
当日徵収します。

内容 田中伸尚氏の講演
テーマ「なぜ日本は太平洋戦争に突入していったか」

講師略歴

卒業 慶應義塾大学

朝日新聞記者を経て、現在
数。 フリー。気鋭のジャーナリスト。著書は「ドキュメント昭和天皇」全六巻ほか多

◎お願い
多くの会員の方の御参加をお願い致します。きっと私達が知らない開戦までの謎が明らかにされるでしょう。
田中氏は体がお弱いので滅多に講演されません。この講

演は貴重なものとなるでしょう。

●八王子の 地下壕見学

日時 八月十一日(日)

集合場所 J R 中央線または
京王線、高尾駅・南口改札口広場

参加費 三百円(資料代、
案内者の謝礼など)
当日徵収します。

定員 三十名
申込 七月十五日までに、往
復葉書で、住所・氏名
・電話番号をお書きの
上、事務局に申し込んで下さい。

御了承下さい。
日本の、アジアの民衆幾百万を死へと追いやった太平洋戦争へ暴走していく日本。日本交渉は決裂し、開戦前夜の緊迫の宮中、午前会議、そして開戦の聖断が下つた「事なきが克明に描かれています。ぜひ、皆様お誘い合わせの上、お出かけ下さい。

◎見学内容とお願い

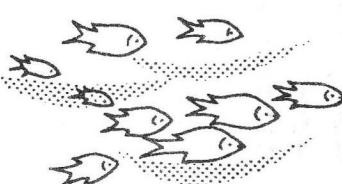
八王子の地下壕は、イロハの三地区に分かれ延べにして長さ十数キロにわたり、飛行機の地下秘密工場として使われた。ロハは既に埋め立てられたり、埋め立てられようとされている。今回見学するのは

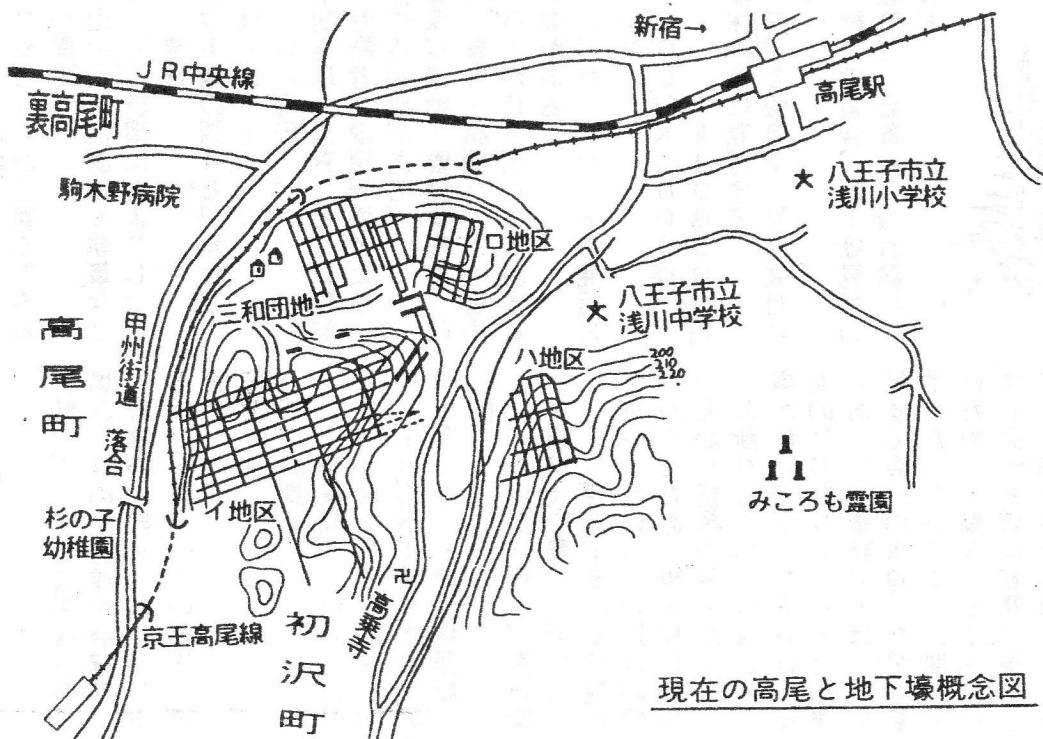
イの地区であるが、ここも出入口はすべて閉ざされ見学することは殆ど出来ません。
しかし、幸いにも地元の地

下壕研究家の豊島氏の御好意によつて、特に出入口の農家の方の了解のもとに見学できることになりました。イの地区の地下壕は、三地区の中では最も大きく七、八キロはあるかと思います。この地下壕掘削に動員された朝鮮人労働者の数は、約五千人とも七千人ともいわれ、死んだ人は少なくとも十数名はいたと推定されています。

見学の前か後に、地下壕についての説明があります。地下壕見学の際には、案内者の指示にしたがつて行動し、謙虚な気持ちで戦争と平和について考え、歴史を学習して頂きたい。

当日の携行品と服装は、懐中電灯、長靴、帽子、手袋などです。





現在の高尾と地下壕概念図

第一回松竹車事△ム報生口

具体的には郷土の歴史に関するものを展示するフロアや、ちょっとした文化的な催しが出来るフロアを要望した。

日時 五月八日午後五時半
場所 藤山記念館中会議室
報告事項 事務局長より

一、会員数三四九名

二、4月14日：港北区主

催の地下壕を中心とした史跡めぐり。申込百五十三名、抽

選で参加者五十名とし、二班に分けて見学（他に区職員約

十名参加）。

三、4月18日：朝鮮総連本部の韓さん他二名と日吉で会談。朝鮮人強制連行・強制労働の日朝合同の調査委員会を神奈川県でも作りたいので協力してほしいとの事であつた。

四、4月20日：第三回総会。出席者四十二名。松代大本當の保存を進める会から電報が届いた。

五、4月30日：東京急行電鉄株式会社に新しく建設す

る日吉の駅ビルに文教都市にふさわしい施設を設けて頂きたいと要望書を日吉地区町内会長全員の名前で提出した。

友の会より8月ごろ地下壕を見学したいと相談があつた。
六、5月1日：玉川高島屋

校PTAが見学予定。

八、5月26日：「横浜大空襲を記録する会」が見学予定。

九、6月28日：慶應義塾

学生国際関係会（慶應義塾学生福利厚生機関の一つ）が、

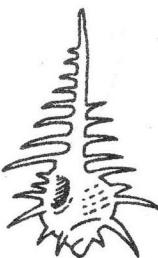
外国人交流学生十数名と見学予定。

幹事より
●講演会、座談会：田中伸尚

さんか山中恒さんに講演を頼んだらどうか。

●講演会、座談会：寺田一。●見学会：八王子や滑川あるいは松代の地下壕の見学会をやる。

八王子の地下壕を問い合わせてみる（寺田一）。
●講演会、座談会：田中伸尚さんか山中恒さんに講演を頼んだらどうか。



田中さんは、体が弱いので余りやらないが、頼んでみる（小園）。山中さんは講演を執筆など忙しく、講演はあまりしないので無理。

●地下壕の調査と記録保存：夏休みにビデオとカメラでやりたい（寺田）。

●聞き取り調査：とくに朝鮮人労働者、慶應関係者についてやる必要がある。

●保有運動（要望書提出、陳情、署名・請願）：どう進めで行くか色々調べて検討する必要がある。

二、パンフレットの発行について夏休み後に発行する。

三、会報第十一号の発行について総会の報告、地下壕見学の感想文、会費納入のお願い、など

日時 六月十二日午後五時半 場所 藤山記念館中会議室
全員で会報十一号の郵送の準備をした。

報告事項 事務局長より

一、会員数＝三百八十三名
二、5月18日：駒林小学 校PTAの地下壕見学会（約四十名参加）。読売新聞記者取材。

三、5月19日：読売新聞に、横浜大空襲を記録する会で、日吉台地下壕の市民見学会をやるという、掛けの記事がでたため、事務局に地主の方から抗議の電話があり、「お断りしたい。今後こんな事が起ころうであれば、全面的にお断りしたい」との事であった。事務局では、「記録する会」の人達十数名が見学したいというように聞いていたので、驚き、すぐ「記録する会」と読売新聞に連絡して、抗議と見学会は出来ない旨を伝えた。

四、5月23日：日吉で、小園、亀岡、寺田の三人で講演会、見学会の具体的な内容について話し合った。
小園さんより、田中伸尚さんから講演の内諾を得た。講演の前に地下壕を見学したいとの事であった。日時は七月十四日（土）午後一時三十分より。
寺田氏より、八王子の地下壕の見学、豊島さんより案内してもよいとの返事を頂いた。日時は八月十一日（日）。詳しいことは後でつめる。

五、5月26日：横浜大空襲を記録する会の地下壕見学会は、中止になつたにもかかわらず、その事を知らない人々が四百～五百人が来て、日吉駅はこつた返した。慶應の広場に誘導して、「記録する会」の責任者から事情の説明と謝罪をして頂き、一応地下壕の話を三十分ばかりして、記念館裏の地下壕の塞がれた入口を見せて、お引き取り頂いた。その後、「記録する会」は西量寺で会合を持ち、地下壕の話をした。翌日この記事

が神奈川新聞にでた。
六、5月28日：「玉川高島屋友の会」の人に会い、地下壕に入らず外から堅穴や塹がされた入口を見るのにとどめ、代わりに古墳などの史跡めぐりをすることとなつた。

七、6月3日：慶應義塾学生国際関係会の人達が地下壕を下見。
八、6月25日：有隣堂出版が、日吉台地下壕についての座談会をする予定。
九、6月28日：慶應義塾学生国際関係会が、外国人交流学生数十名と見学予定。
終わって第二次大戦を中心に、戦争と和平について話し合う。

一〇、7月7日：日吉台西中学校PTAが地下壕見学の予定。

●八王子の見学会：日時＝八月十一日（土）二時 集合場所＝JR中央線または京王線、高尾駅・南口改札口

(5)

●田中伸尚氏の講演会：二時半
場所＝藤山記念館大会議室
二、会報十二号の発行について
幹事会報告、地下壕見学の感想文、見学会・講演会の案内など

三、その他

- 三色旗（慶應義塾大学通信教育部発行）に、永戸多喜雄氏が「日吉キャンパスの地底には」というテーマで日吉台地下壕の事を書かれている。
- 第二回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会について
- 保存会として賛同団体として参加するかどうかを討議した結果、様々な団体が賛同しており、特に参加したからといって拘束されることは何もなく、かえつて様々な情報が得られるので、参加することに決定した。また、会として小園幹事を送ることにし、寄付金によつて、交通費と参加費を出すことにした。

日吉台小学校 P.T.A
日吉の地に移り住んでから早五年、長女が慶應義塾中等部に入学してから丸三年。吉、慶應義塾、ともにとても大切で身近な存在であつたに

明は大変分かり易く、また意味深く拝聴致しました。地図で根気のいる仕事だと思いまが、保存の会にぜひ頑張って頂きたいと思います。まもし出来れば長女の在学中も塾生達に生きた教材として体験する機会が持てれば素晴らしいことと思っています。本当に有難うございました。

和の最後などの戦記ものを読むのがつづけとなつたものでした。

もかかわらず、地下壕の事は全く知らずに過ごして参りました。私は戦後生まれの母親として三人の子供の子育て真っ最中ですが、平和の大切さは母親となつてからは、より強く感じております。戦争を知らない私が、どの様な形で子供達に戦争の悲惨さ・平和の尊さを伝えたらよいのか・・・。頭の中のイメージだけではなく、まさに百聞一見にしてなく、まさかの驚きを覚えました。

本当に有難うございました。
(2年3組 中山
先日は地下壕の御案内戴
ありがとうございました。
激しました。私事で恐れ入
ますが、敗戦後十年たつた
頃、「私が中学生の時『レイ
湾の日本艦隊』なる本を入
したのでした。中野五郎の
本で専門語も多く難解な本
でしたが、興味深く読みまし
たが、興味深く読みまし
その本はずつと昔に紛失し
したが、内容は今でも記憶
しています。「捷一号作戦」

本当に有難うございました。
(2年3組 中山
先日は地下壕の御案内戴
ありがとうございました。私事で恐れ入
激しました。ますが、敗戦後十年たつた
頃、私が中学生の時「レイ
湾の日本艦隊」なる本を入
したのでした。中野五郎の
本で専門語も多く難解な本
でしたが、興味深く読みまし
たが、その本はずつと昔に紛失し
したが、内容は今でも記憶
しています。「捷一号作戦」
「我に天佑神助あり」「断
て行えば鬼人もこれを避く
「阿修羅と化す」「酸鼻」
どの言葉の中に、戦艦武藏
金剛・山城や、空母端鶴・
代田を次々に喪失していく
のでした。その後沖縄戦や

場に入つてみると、大規模でかつ堅固なもので、大きな労力が払われたことも知りました。朝鮮から連れてこられた人達も多数働いていたとの事でしたが、私は前に仙台市南方の山門山高射砲陣地建設の時も朝鮮の人達を連れてきて働かせたと聞いたのと同じ様な話でした。建設した人達も、日吉に住んで爆撃の被害にあつた人も、そして多分一度も作戦効奏する事なくこの壕で策を練つていた軍人達もどれほど苦労したことありますか。

朝鮮、ベトナムで戦争がありました。そして現に今も、何と国連決議の名ですら戦争が行われたのでした。兵器の在庫は確かに減らすのに成功しましたが、これで何がよくなるのか心配でなりません。正義のためや平和のための戦いなどありません。戦争は所詮不正義で殺戮なのです。

将来も日本の更拡状況からみて、戦争が準備されているようです。何かできることかねばなりません。苦しい戦いも時間が過ぎれば風化するものです。この地下壕こそ、また過去の歴史の証人として、次の世代に平和の大切さを語りかける証人として、後世に残すべき遺産と考えます。

(6年養護組 坂入)

先日は地下壕の案内をして頂きましたがどうございました。広い地下壕を見学の間、最初から最後まで細かな説明をして頂き、あの湿つた地下の中で働いていた沢山の人達の姿

や戦争が、とても身近に感じられ、戦争が起こらないように

いと思つた自分を反省させられ、戦争が起こらないように頗るわざにいられませんでした。

(2年1組 坂本)

先日はどうもありがとうございました。地下壕見学はまことに申し訳ありませんでした。が、しかし、

地下壕入口にたつた時点で大きさに圧倒されましたが、日吉に地下壕があるのは

の存在を知り、今回見学させて頂きました。

物見遊山でなく云々・・と自分にいい聞かせながらも、実際にY字型の

入口を見るまでは、ウキウキ

つきませんでした。それが子供が小学校に入り、国語で戦

争で家族を亡くした子供の話などするようになり、日吉も

コンクリートの壁に驚き、地

下壕の中に入つてみて、その

大きさ、長さに圧倒されました。

四十六年も前に造られた

ものだと自分に言い聞かせ、

祖父母、父母から聞いていた

終戦間近の窮乏生活を思い、

一体どういう人が、どのくらいの期間でほつたんだろう?

このことが不思議でなりませ

ん。朝鮮の人々ということで、

一層やりきれない気持ちで帰

つてきました。

祖父母の時代の事だと思う

と事実を記録することが時間

との戦いだ、とあらためて思

いました。

(2年3組 森岡)

病気や怪我で病院を駆け回つたり、寝ずに心配をし、そ

の掛替えのない我が子が、先

日の戦争のように一個人の欲望のために戦いに出て、犠牲になることなど絶対に避けなくてはならない。あの様な地下壕は、過去の過ちの教材であつてほしいし、子供にもぜひ見せたいと願っています。

(2年1組 若林)

見学に参加させて頂いて、とても良かったと今も思っています。毎日、早くあの地下壕を多くの人に見て貰いたいと思う気持ちをお持ちになつてゐる先生方の夢がかなう日が早くくると良いと願っています。

でもその日はまだ先の事。戦争の事、戦争でなくなりた人達の事、この地下壕を造つた人達の事など、これらの人達に分かつて貰えるかどうか。だんだん戦争の型も変わってきたこんな時代、私も戦争を知らない一人ですが、あの日から映画で良くみた戦場場面が本当にあつて、まだ色々な所に残っている事を思い知らされました。

出来たら私の子供達にも見せて、戦場の怖さを話して、

物の大切さを分かつて貰いたいと思います。色々と説明して頂いたことの出来る限りを子供にも話したいと思つています。本当にどうも有難うございました。

(3年3組 牛久保)

日吉に引越しして一年が経ち、もつと日吉の町について知りたいと思つて、幸運にも今回の地下壕見学のお話を頂きました。寺田先生のお話は大変興味深く、地下壕を掘るために沢山の朝鮮人労働者が労働を強いられたこ

と、農民が住居を追われたこと、また海軍の施設があつた為に日吉の町は空襲を受け灰になつてしまつた事など、想像を絶する日吉の町の悲劇を知りました。

(3年1組 文岡)

日吉台小学校の先生から地下壕見学会のあることを教えて頂いての参加でした。見学会に参加するまでは、このようないいことを何も知りませんでした。今回見せて頂いた壕は、私の住んでいるマジンションの敷地に隣接しており、その地上部は春になると桜が咲き乱れ、ひとたび風が吹くと、花吹雪

今の日本政府に対する苛立ちと似たものを感じたのは私だけだったでしょうか?

戦後四十六年、あの戦争の悲劇は風化されつつあるといわれる現在です。思わず「人の命は地球より重い」という言葉を信じつつ黙とう致しました。

私たちは平和を維持するためにはらゆる努力をし続けなくてはならないと、改めて感じさせられた一日でした。先生のお話、是非もう一度伺えた

らと思います。

(3年1組 文岡)

日本海軍は情報を軽視していく事で、人の命を預かりながら、情報なしに大体の見当で戦争をしていました。見学をしていったところでは、このように地下壕のあることを何も知りませんでした。今回見せて頂いた壕は、私の住んでいるマンションの敷地に隣接しており、その地上部は春になると桜が咲き乱れ、下壕の保存も意味があるよう

いと思いました。有難うございました。

(6年3組 辻村)

その地上とあまりに違つた地下壕、ありの巣のように奥深く、そして入念に厚くコンクリートで塗り固められていました。まるで地下鉄が走るトンネルのようでした。敵機が頭上を飛来するようになり、国土がどんどん戦場となつていく時に、必死に穴を掘らせ、その安全な場所で戦略を練つたのでしょうか。一方で、地下壕で灯を消したとき真っ暗になり、音もなくなり、何もかもが不気味でした。この地下壕を寺田先生がお側にいらっしゃるのを確認しながら、恐る恐る一步一歩進んだとき、戦争の愚かさを感じました。そしてこのままでは不備があるでしょうが、色々語りかけてくれる現在の地下壕の保存も意味があるよう

地下壕の存在は知つていませんが、実際に中に入つてみると、今となつては「無駄に」費やされてしまつたエネルギーの大きさを感じました。こういつた事は、資料や教科書で「知る」のではなく、实物で「感じる」のが大切で、保存の必要性を強く感じています。

(1年2組 大野)

今回は貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございます。頂いた。思つていた以上に、大規模な地下壕にびっくりしました。灣岸戦争で、毎日ニュースでミサイル攻撃など戦争というものを、身近で感じていた後だけに、あの様な深い穴を掘り、分厚いコンクリートで固める大作業をしなければならない不幸な時代を思ひ、今はなんて幸福な時代だろうと、改めて感じました。親も戦争を知らない世代、子供に戦争の恐ろしさ、人の命の尊さを教えようにも、なかなかそのようなチャンスがありません。家にかえつて話をしても何の事かよくわから

らず、ボカーンと聞いていました。子供達にも是非地下壕見学をさせて、どうしてこのよ

うなところに、こんな穴を掘らなければならなかつたか、どうして戦うのか、という事を少しでも考える子供が増え

(2年1組 大丸)

を少しでも希望します。

（2年1組 大丸）

会報第十一号をお送りしました。際に、一九九一年度の会費をお納め下さつてある方に、郵送事務簡素化のため全員に振替用紙を同封させて頂きました。誤解を生じた向きました。誤解を生じた向きましたが、悪しからず御了承下さい。

お詫び

う注目の大河ドキュメント
(六巻まで既刊) 緑風出版

田中伸尚

編集後記

- ◆会員も三百八十三名となると、郵送事務も大変で、どうとう幹事会の時に出席者全員に手伝つて頂きました。
- ◆それでも二時間近くかかりました。郵送事務の大変さが良くわかつたとお手伝いして頂いた方がおつしやつていました。
- ◆「これからもおつしやつて頂ければお手伝いしますから」といわれて、本当に嬉しく有難く思いました。
- ◆会報十一号の発行からまだ日にちが経つておませんが保存会の行事が迫つていますので、会報第十二号の発行を急ぎました。
- ◆今回の保存会の行事は滅多に聞けない話や、もう見られなくなるかも知れない地下壕を見学します。御期待下さい。

地下壕開闢連図書紹介

◎わだつみのこえ
一日本戦没学生

記念会機関誌

（七月十五日発行）

*子供達にも戦場があつた
小蘭優子

日吉台地下壕

寺田貞治

◎三色旗（六月号）

慶應大学通信教育部発行

*日吉キャンパスの

地底には

永戸多喜雄

◎昭和天皇（全七巻）
「昭和」の終えんの予兆の中で、天皇と「昭和」を問

う注目の大河ドキュメント
(六巻まで既刊) 緑風出版

田中伸尚

編集後記

- ◆会員も三百八十三名となると、郵送事務も大変で、どうとう幹事会の時に出席者全員に手伝つて頂きました。
- ◆それでも二時間近くかかりました。郵送事務の大変さが良くわかつたとお手伝いして頂いた方がおつしやつていました。
- ◆「これからもおつしやつて頂ければお手伝いしますから」といわれて、本当に嬉しく有難く思いました。
- ◆会報十一号の発行からまだ日にちが経つておませんが保存会の行事が迫つていますので、会報第十二号の発行を急ぎました。
- ◆今回の保存会の行事は滅多に聞けない話や、もう見られなくなるかも知れない地下壕を見学します。御期待下さい。

